

平成24年度に事後評価を行った評価結果（概要）について

1. 計画の指標の達成状況は次のとおりとなっている。

| 評価対象計画数 | 計画に掲げる指標をすべて達成した計画数 | 指標の達成が100%未満のものがあった計画数 |
|---------|---------------------|------------------------|
| 3 | 1 | 2 |

2. 計画に掲げる指標をすべて達成した地区の、本計画に取り組んだ効果として、次のような実績があった。

（1）農村の振興

- ・市外から参入した農業生産法人へ遊休農地を集積するとともに、既参入農業生産法人への集積拡大もあり、遊休農地の解消が図られた。

（2）グリーン・ツーリズム都市農業の振興

- ・該当なし。

（3）農業生産基盤の整備

- ・該当なし。

（4）中山間地域等の振興

- ・該当なし。

3. 指標の達成が100%未満のものは次のとおりであった。

| 評価対象計画数 | 指標の達成が100%未満のものがあった計画数 | うち指標の達成が70%未満のものがあった計画数 | うち指標の達成が50%未満のものがあった計画数 |
|---------|------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 3 | 2 | 2 | 0 |

4. 指標の達成が未達成となった主な要因としては、次のような事例があった。

(1) 農村の振興

- ・該当なし。

(2) グリーン・ツーリズム都市農業の振興

- ・都市との交流による農村の活性化を目指しているが、東日本大震災による全国的な自粛ムードにより宿泊者数等が伸び悩んでいる。このため、周辺施設をセットにした地域密着商品を提供するとともに、「神話博しまね」と一体となって効果的なPRにより目標達成に向けた取り組みを行っていく。又、宿直体制の見直しや食事提供方法の改善が検討されており、宿泊者数の増加に向けて努力していくとともに、田舎料理体験など気軽に田舎暮らしを楽しめるニーズを捉えた日帰り利用者の拡大に努め、交流促進等を推進していく。

(3) 農業生産基盤の整備

- ・該当なし。

(4) 中山間地域等の振興

- ・新技術の導入による地域資源を活かした農山漁村の振興を目指しているが、当該技術の優位性のピーアールに時間を要したことや、材料やその部位・形状等に応じた適切な技術的対応の習得に時間を要した。さらには、自然環境の変化による不漁や燃料費の高騰などにより漁獲量が大きく変動し原材料確保が難しかった。こうしたことなどが複合的に重なり、目標の達成が困難となった。このため、関係する漁協との仕入計画の明確化等の連携強化や、豊漁時の一時貯蔵による収集出荷の調整に取り組むこととした。また、二次加工品の開発や外食チェーン等との取引の強化を図ることとしている。さらに、これらを推進するため、UIJターンを含めた人材育成に努める。

5. 指標の達成が未達成となった計画については、今年度指標が未達成となった要因等を分析するとともに、「改善計画」を作成し、農政局の指導のもと、県・市町村が連携し、指標達成に向け取り組んでいる。